

令和7年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(後期日程)

小 論 文

(地域学部 地域学科 地域創造コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は3ページ、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚である。
指示があってから確認し、乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所等がある場合は、ただちに試験監督者に申し出ること。
3. 解答は解答用紙（横書き）に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

【問題】次の文章（資料①、②）は、『暮らしの質を測る —— 経済成長率を超える幸福度指標の提案』（2012年）からの引用である。文章を読んであとの問いに答えなさい。

<資料①>

国内総生産Gross Domestic Productは経済活動の計測に最も広く用いられている。その算出方法には国際的基準があり、その統計的および概念的基礎について多くの研究がなされてきた。しばしばそれが経済的な福利厚生度の指標であるかのように扱われてきたが、GDPは主として市場での生産指標である。この二つを混同すると、人びとの幸福度についての判断を間違え、誤った政策決定をすることがある。

経済業績と生活水準についての金銭的な計算が社会においてこれほど重要な役割を演じるようになった原因は、一つには、財貨やサービスを金銭で表示すると、性格がおおいに異なるものの合計額を簡単に計算できるからである。リンゴ・ジュースとDVDプレーヤーの値段がわかると、その価値を合計し、生産額と消費額を一つの数字に表現できる。

しかし、市場価格は単なる計算のための手段以上のものである。経済理論によると、市場が正しく機能していると、ある商品の他の商品に対する市場価格の比率は、そうした商品を購入する人々による、二つの商品に対する相対的な評価を反映している。

さらに、GDPは、それを消費するのが家計であれ、企業であれ、政府であれ、経済におけるあらゆる最終製品を対象としている。こうして、価格でそれら进行评估することは、ある特定の瞬間に社会がどれだけ繁栄しているかを一つの数字で把握する、よい方法であるかのように思える。

そのうえ、価格を一定にして、GDPに入っている財貨とサービスの量を観察するのは、むしろある社会の生活水準がどれだけ向上しているのかを図る、合理的な方法であるようにみえる。

しかしながら現実はずっと複雑なのである。

第一に、価格が存在しない財貨とサービスがあるので（例をあげれば、政府が無料で医療サービスを提供したり、家庭内で育児が行われた場合）、こうしたサービスの価格をいくらかで評価するのが問題になる。

第二に、市場価格が存在している場合でも、その価格は社会内で行き渡っている評価とはズレているかもしれない。特にある商品の消費か生産が社会全体に影響を与える場合、個人がこうした商品に対して支払う価格は、そうした商品が社会全体で受け入れられている価値とは違ったものになるであろう。市場価格に反映されていない、生産や消費によって起きる環境への被害は、よく知られている一つの例である。

さらにもう一つの問題がある。「価格」や「数量」の概念について議論をすることは直線のように簡単だが、実際にそれらに変化してゆく状態を定義し、計算しようとする、それはまったく別の問題になる。実際には、多くの商品は時間の経過とともに変化する。商品はまったく消滅したり、新機能が加わったりする。情報通信技術のような分野では、品質の変化がきわめて速い。医療サービス、教育サービス、研究活動および金融サービスのように、品質が複雑で、多次元にわたり、計測しにくい製品がある。

インターネットやディスカウント店で行われる販売部分がますます大きくなる分野では、データの集計が困難になるという問題が生じている。

・・・(中略)・・・

市場価格が財貨とサービスに対する消費者の評価を反映していくためには、消費者に選択の自由があり、関係する情報を処理できるようになっていることが必要である。それほど想像力を働かせなくても、消費者はそのような状態になっていないという主張ができる。

複雑な金融商品は、消費者にはよくわからず、市場価格が正しい経済情報を体現するという役割を果たしていないという、一つの例である。通信会社が提供する、複雑でいつも変化を続けているサービスの集合体は、そのもう一つの例である。この例では、通信サービスの透明性と価格情報を両立させるのがむずかしい。

こうした事柄は、価格が示す情報を、時間の経過および場所の広がりに関連させてみていく必要があるということの意味している。多くの目的からみて、価格情報は、数量の合計を把握するのに適した指標ではなくなっている。

だからといって、経済業績を計測するのに市場価格を用いるのが一般的に間違っているというのではない。しかし、しばしばあまりに強調されすぎる指標であるGDPについては、特に慎重であるべきだということがいえる。

<資料②>

生産高の計測方法に不十分な点があるとはいえ、われわれは幸福度についてよりも生産高についてのほうを、よりよく知っている。重点を移すというのは、GDPと生産高の計測をやめてしまうということではない。重点を移すという考え方は、市場での生産と雇用に関して抱いている懸念によって生まれた。

GDPと生産高は、経済活動の観測など多くの重要問題に回答を与え続けている。しかしながら幸福度を強調することが重要なのは、総体としてのGDPデータに含まれている情報と、普通の人びとの幸福度にとって重要なものとの間では、懸隔がますます大きくなっているようにみえるからである。このことは、市場活動の計測を、人びとの幸福を中心にした計測と持続可能性をとらえる計測によって補うような、統計システムの開発を目指して努力すべきだということの意味する。

そうした統計システムは必然的に複数のシステムにならざるをえない。社会の構成員たちの幸福度という複雑な事柄を一つの数字で要約することはできないので、われわれの計測方法は広範な異なる数字の群れを包摂することになる。次元の異なる数字の総和をどうやって作り出すかという問題は(それは一例をあげれば、健康の度合いを伝統的な諸商品の消費数量とどうやって合算するのかという問題になる)、重要ではあるが関連がある、できるだけ多くの次元をとらえるような、広範な統計システムを開発するという問題に比べれば、それほど重要ではない。

新統計システムはある地域社会の平均的な幸福度の水準を計測し、時の経過につれてその幸福度水準がどう変化するかを計測するだけではない。人びとの多種多様な経験と人びとの暮らしのさまざまな次元とのつながりを記録するものであるべきである。幸福度にはいくつかの次元があるが、物質的な福利厚生、あるいは生活水準は、幸福度を計測する一つの出発点になる。

・・・(中略)・・・

幸福とは何かを定義するには、多くの次元で定義を行わなければならない。学問的研究と世界各地で開発した多くの具体的提案に基づいて、当委員会は考慮すべき主要な次元は次のよ

うなものであると考えるに至った。

．．．（中略）．．．

1. 物質的な生活水準（所得、消費および財産）
2. 健康
3. 教育
4. 仕事を含む個人的な諸活動
5. 政治への発言と統治
6. 社会的なつながりと諸関係
7. 環境（現在および将来の諸条件）
8. 経済的および物理的な安全度

すべての次元が人びとの幸福度をかたちづくる。それなのに伝統的な所得計算はこうした諸次元の多くを見落としている。

〈幸福度の客観的および主観的な次元は、ともに重要である〉

（出典）ジョセフ・E・スティグリッツ/アマティア・セン/ジャンポール・フィトゥシ（福島清彦訳）『暮らしの質を測る ――経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会、2012年。

（注1）同書は、「経済業績と社会進歩を計測する委員会」（フランス大統領ニコラ・サルコジによって任命された著者3名を含む24名の研究者）による報告書「われわれは暮らしの測り方を間違えている ――なぜGDPの合計はあわないのか」（2009）を翻訳して出版された。

（注2）出題にあたり、文章の趣旨が変わらない形で原文中の小見出し、本文の一部、注釈、引用表記を省略した。また、資料①は、28-31ページ、資料②は、12-17ページより引用した。

問1 「生産高」と「幸福度」という言葉をもちいて、課題文の内容を400字以内で要約しなさい。

問2 幸福度（暮らしの質）を測るうえであなたが重要と考える指標を、問1で解答した本文の要約をふまえ、地域の具体的な事例をあげて、800字以内で説明しなさい。